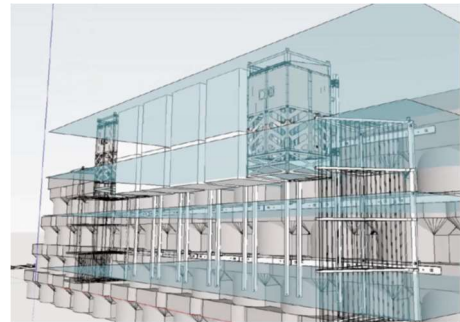


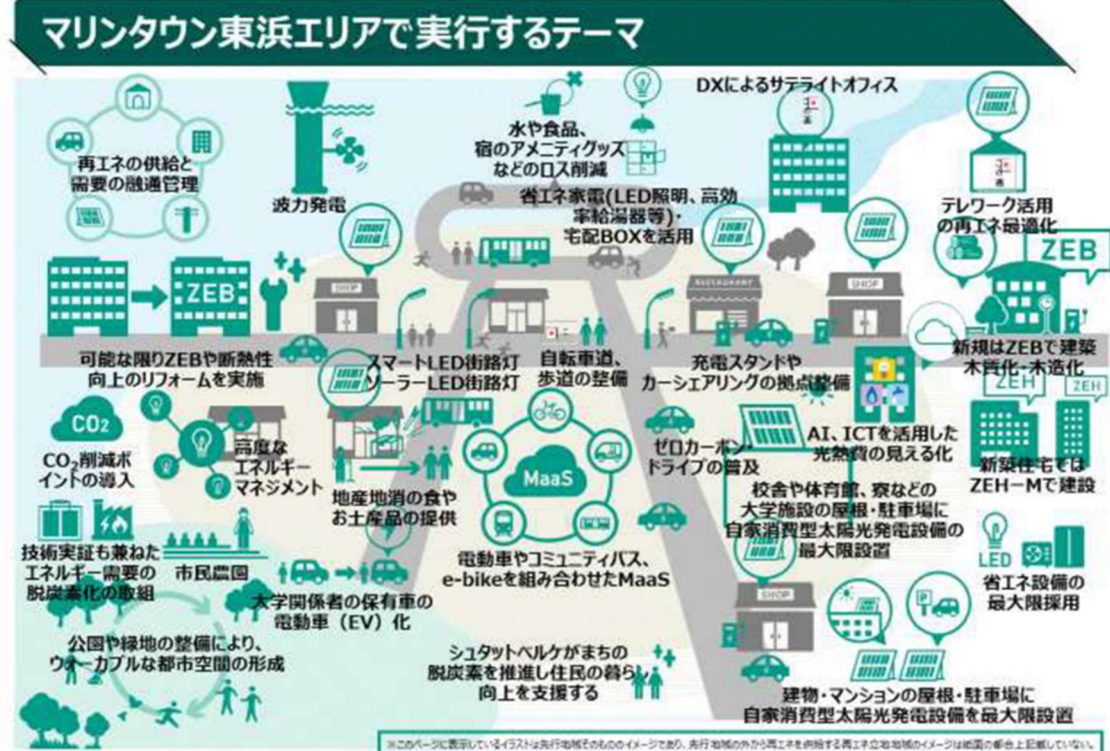
① 沖縄県与那原町

環境省が選定した脱炭素先行地域の1つである同町東浜の与那原マリーナに、当社の往復型回転加速式発電装置1基を設置し、発電効率、耐久性、量産性のバージョンアップ実証試験を2025年1月より実施しています。昨年度に続き本年度も内閣府より「沖縄振興特定事業推進費」の交付が決定済みで9月頃より6基連結による大型化の実証を計画しています。27年度には同マリーナの防波堤内側に約350基(出力350kWh)並べて設置する計画であり、これは一般家庭の約700戸分の消費電力に相当する電力量です。環境省の脱炭素先行地域及び国土交通省のカーボンニュートラルポート構想のモデルケースとして、波力クリーン電力の使い道や系統接続等の議論を自治体、電力会社を交えて開始しています。



6基連結大型化実証（沖縄県与那原町）

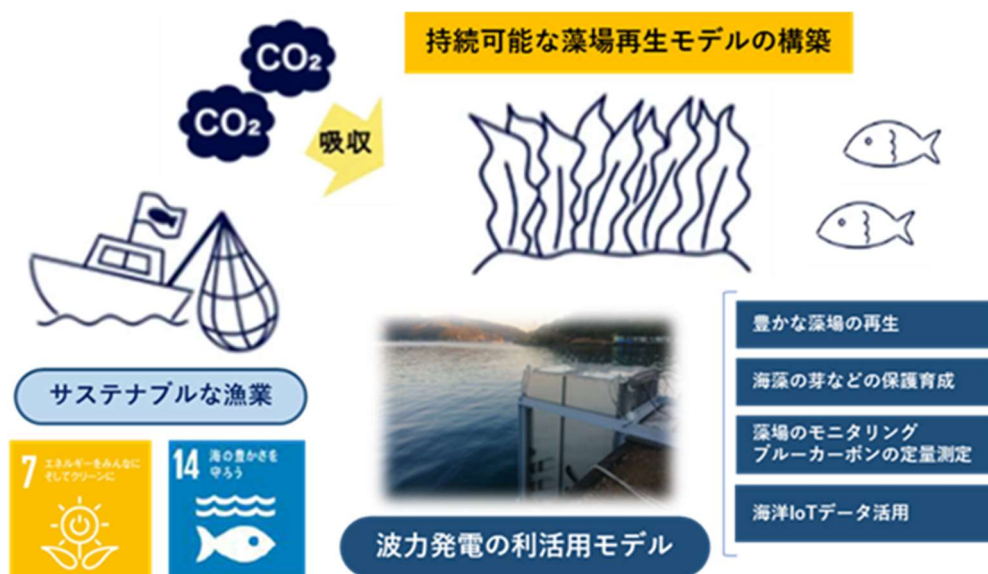
「地域脱炭素ロードマップ（概要）」（環境省）（https://ondankatsaku.env.go.jp/carbon_neutral/road-to-carbon-neutral/#to-approach）を加工して作成



出展：環境省「地域脱炭素ロードマップ（概要）」

② 島根県海士町

海士町は、島根県の沖合に浮かぶ隠岐諸島の一つで人口約 2,200 人の離島ですが、豊かな海の幸や自然に恵まれ、移住者増加や教育・産業振興による地域再生で有名です。海士町は水産資源の増大に向けて藻場再生の実証実験に取り組んでおり、海藻の芽などを保護育成するために、今年度設置予定の往復型回転加速式発電装置による波力クリーン電力を蓄電し実際に使用していく計画です。養殖業やブルーカーボン向け波力発電利活用の付加価値モデルケースとして、同じくサステナブルな水産業に取り組む国内自治体向けに横展開を図っていきます。



ブルーカーボン事業に於ける波力クリーン電力使用例

③ 東京都神津村

神津島は東京から南へ 180km に位置する伊豆諸島の一つで東京都初の「星空保護区」に認定された満天の星で有名です。また、伊豆諸島ではトップクラスの漁獲量を誇る漁業も盛んです。当社の波力発電装置は「TOKYO 地域資源等を活用したイノベーション創出事業」に採択されており、神津島にて更なる高出力化の次世代型モデル開発の実証を予定しています。離島の主要電源であるディーゼル発電等を代替し得る新たな再生可能エネルギーの選択肢と期待されています。